

# 日本細菌学会 平成 28 年第 2 回理事会議事録

- 日 時：平成 28 年 3 月 22 日（火） 11：30～16：00
- 会 場：大阪大学微生物病研究所・第一会議室（本館二階）
- 出席者：堀口安彦 理事長，  
阿部章夫，大西 真，川原一芳，川端重忠，木村重信，古西清司，白井睦訓，  
関水と久，辻 孝雄，中川一路，林 哲也，八木淳二，山口博之 各理事  
大原直也，三宅眞実 両監事  
中野宏幸 評議員会議長、赤池孝章 評議員会副議長／第 90 回総会長  
オブザーバー：高井伸二 先生
- 欠席者：桑野剛一，西川禎一，松下 治 各理事

※五十音順 敬称略

## I. 開会（堀口理事長挨拶）

木村理事の異動に伴い東北支部理事が高井先生に交代するので、本理事会に高井先生がオブザーバーとして出席する旨、紹介があった。

## II. 確認事項

前回理事会（平成 28 年第 2 回理事会）の議事録の確認が行われた。修正意見など特になし。修正などある場合には事務局早瀬氏に直接問い合わせることになった。

## III. 総会報告

### 1) 第 89 回総会開催報告

堀口総会長より、演題数は前回の岐阜での総会と同程度、事前参加者登録数は、前年度に比べ若干多いと報告があった。また明日からの学会開催に向け、協力要請があった(式次第資料 p8-9)。

### 2) 第 90 回総会準備状況報告

赤池総会長から資料(式次第 p10-12)に沿って以下の説明があった。仙台国際センター展示棟で開催され、会期は 2017 年 3 月 19 日（日曜日）から 3 月 21 日（火曜日）まで。テーマについては(設定するかも含め)、理事懇談会や第 89 回総会会期中に開催されるシンポジウム企画委員会での意見や今回の総会の流れ(大きく変えないように)を踏まえ検討していく。プログラムは、前回の岐阜と今回の総会での枠組みに沿って、シンポジウム(10 前後)とワークショップを開催する。理事会と評議員会は例年通り総会前日に東北大学片平キャンパスで、ICD 講習会は初日 15 時頃から、総会と浅川賞受賞公演は 2 日目の 13 時頃から、それぞれ開催する予定である。懇親会の開催については(会費を徴収し開催するか否かについても含め)、検討中である。

#### IV. 報告事項

##### 1) 総務部会報告

###### ①総務・渉外担当報告（阿部理事）

阿部理事より、資料に基づき(式次第 p13-14)、会員現況などについて以下の報告があった。平成 28 年度 2 月 29 日現在、名誉会員 39 名、正会員 1,890 名、学生会員 511 名、賛助会員 42 社。会員数は若干減少傾向にあるが、賛助会員については、堀口理事長の発案により、増加している。また学校法人北里研究所北里柴三郎記念室森事務長より、北里柴三郎先生の動画が見つかり、本学会で上映して欲しいとの、申し出があり、総会で上映することになった(式次第 p15)。さらに名城大学学生フォーラムへの後援に関して、後援した大学より堀口理事長宛に礼状が届いた(式次第 p16-17)。

###### ②広報・HP 作成担当報告（中川理事）

中川理事より、英語版の HP の立ち上げに向け、総会中に開催される広報委員会から、他の学会 HP を参考にし、具体的な検討に入ると説明があった。また本総会が近づくとつれ FB へのアクセス数が急増。

###### ③選挙関連担当報告（八木理事）

八木理事より、資料に基づき(式次第 p36-48)、電子選挙実施(選挙の完全電子化)に向け、2 社より見積書を取り寄せた旨、報告があった。見積書の内容については、審議事項として、改めて審議するとの説明があった。

##### 2) 財務部会報告

###### ① 会費・会計担当報告（関水理事）

関水理事より、報告事項は特にないが、本件は審議事項で審議する旨、説明があった。

###### ② 賛助会員担当報告（中川理事）

特になし(式次第 p18-19)。

##### 3) 学術部会

###### ① 学術支援・評価担当報告（林理事）

林理事より、昨年同様に、本学術総会においても、本委員会メンバーに若干の理事を加え、優秀発表賞の選考が行われる旨、説明があった。

###### ② 学術企画分野

1. シンポジウム等企画担当報告 (堀口理事長): 西川理事に代わって、堀口理事長よりシンポジウム企画委員会からだされた来年度の学術総会でのシンポジウムとワークショップの企画案資料(コンビーナーと内容)の提示があった(別添 1)。またこの企画案に対して、堀口理事長より、斬新なタイトルの企画が多いが、従来からのオーソドックスな企画との調整が必要との意見があった。また 2 日目の若手懇親会で、日本細菌学会のシンポジウム・ワークショップに関する若手研究者の意見を収集すべくアンケートを実施する旨、説明があった(式次第 p20)。

2. バイオセーフティー担当報告（大西理事）：大西理事より、前回の理事会で討議された「炭疽菌と野兎病菌のワクチン株の取り扱いレベルの規定」の件で、リストを更新し HP 上に掲載した旨、報告があった。

3. ICD 制度協議会等担当報告（白井理事）：特になし。

###### ③ 学術交流分野

1. 日本微生物学連盟担当報告・日本学術会議担当報告（川原理事）：川原理事より、資料に基づき(式次第 p21-26)、以下の説明があった。「国際的に脅威となる感染症対策

関係関係会議」が新たに設置され、「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針」が関係会議で決定された。すなわちこれは国が国際的な感染症対策に積極的に関わる意思表示である。これらを踏まえ、関係学会は情報を共有し協力する必要がある(本学会にとってチャンスと捉えられるので)。関水理事より、このような基本計画内容に薬剤耐性細菌の重要性が明確に盛り込まれるよう本学会として、アピールしていく必要があるのではと、発言があった。堀口理事長からは、薬剤耐性菌は追い風であり、アピールするチャンスと捉えられると発言があった。大西理事からは、薬剤耐性菌に対する国のナショナルアクションプランがまとまりつつあり、サミットでは感染症への国際協力は常にテーマになるので、5月末に開催される伊勢志摩サミット前には具体的なプランが明らかになるのでは、と追加発言もあった。

2. 日本医学会連合担当報告(辻 理事)：特になし。
3. 予防接種推進専門協議会担当報告(大西理事)：HPV ワクチンに関する持ち回り会議内容は審議事項で確認する。

#### 4) 教育部会報告

①次世代教育・人材育成担当報告(堀口理事長)：松下理事に代わり、堀口理事長から、資料に基づき、以下2つの報告があった。1つ目は細菌学若手コロッセウムについて。第9回細菌学若手コロッセウム(代表世話人 鹿児島大学 小松澤先生)が、2015年11月23日に鹿児島で開催された(式次第 p27-28)。第10回細菌学若手コロッセウム(代表世話人 群馬大学 富田先生)は、群馬大学草津セミナーハウスで2016年7月31日-8月2日に開催される予定である。例年どおりFBでアナウンスし、周知を図る。また堀口理事長から、まだ参加していない理事にはできるだけ参加するよう、協力要請があった。2つ目として、資料に基づき(式次第 p29-32)、松下理事より提出された提案書「初等教育における細菌学啓蒙活動の再開について」に関して以下の説明があった。財政悪化によりいったん凍結した野田先生(千葉大学)による小・中学生を対象とした全国無料出張講演を再開することになった。それに伴い15万円を予算計上した。堀口理事長から、この出張講演(野田先生お一人に任されていることについて)の学会としての取り組み方について、懇談会で審議する必要がある旨、発言があった。

②教育資源発掘・保存担当(堀口理事長)：堀口理事長から、資料に基づき(式次第 p33)、以前から作成作業を進めていた、日本細菌学会教育用映像集(動画)2016年版が完成した旨、報告があった。学会事務局早瀬氏より、DVDは100部作成され、今回の総会にて頒布を一部3,000円にて開始する旨、報告があった。堀口理事長より、DVD作成にボランティアで携わっていただいた方には、学会から感謝状をだす旨、あわせて報告があった。

#### 5) 出版部会報告

① 学会誌担当報告(大西理事)：大西理事より、第1号が2月25日に発刊され、4号を計画中である旨、報告があった。堀口理事長から、学会受賞者名、議事録、理事会の構成メンバーなどが、プログラム集やアプリ(Jステージに掲載されたデータを踏まえ作成)に掲載されていないとの指摘があり、次回の総会で改善することになった。また遺漏のないよう対応するよう要請があった。

② MI誌担当報告(川端理事)：川端理事より、資料に基づき(席上配布回収資料)、Wileyとの契約交渉の進捗状況に関して説明があった。

③ 用語集担当報告（八木理事）：八木理事より、Web 化に向け前回の理事会での南山堂からの説明と質疑応答内容を踏まえ、具体的な作業内容について、総会中に行われる委員会ですらに詰めていく予定である旨、報告があった。

#### 6) 国際交流部会報告

① IUMS 等担当報告（古西理事）：特になし。

② 日韓微生物等担当報告（山口理事）：桑野理事に代わり、山口理事より、以下の報告があった。学術振興会へ申請した二国間交流事業（第 13 回韓日国際微生物学シンポジウム開催に関わる渡航費が採択された。なお、申請額は 120 万円で、シンポジストへの学会からの支援は不要となった。第 13 回韓日国際微生物学シンポジウムにおける若手研究者助成金の公募を 2 月 24 日付けで開始した。堀口理事長より、若手渡航助成費用として 7 万円×10 名分を予算計上した旨、追加発言があった。

#### 7) 社会交流部会

① 利益相反担当報告（辻理事）：特になし。

② 倫理担当報告（白井理事）：特になし。

#### 8) その他

特になし。

### V. 審議事項

#### 1) 平成 28 年度予算（案）について

関水理事より、資料に基づき以下の説明があった(式次第 p34-35)。単年度収支で、515,220 円の黒字となった。支出の部で、会誌出版/発送費は、日本細菌学雑誌の電子化に伴い、85 万円の削減となった。教育活動費は、DVD 動画第 2 版作成費(残金)、第 10 回若手コロッセウム支援費、無料出張講演支援費(15 万円の復活予算)合わせて、28.2 万円の支出増となった。日韓シンポジウム関係費として、若手研究者発表助成金 70 万円(7 万円×10 名)を予算計上した。堀口理事長より、収入が確実に減っているので、全般的な対処が必要である旨、発言があった。決算案については前回の理事会にて承認済み(堀口理事長)。

#### 2) 法人化検討委員会の設置および委員について

川端理事より、資料に基づき法人化に向けたロードマップについて以下の説明があった(席上配布資料)。理事全員が、検討化委員会委員になる。作業部会を、堀口理事長、川端理事、阿部理事、三宅評議員、大原評議員で構成する。作業部会にて 2016 年 12 月末までに、既に法人化している学会などから意見を聞き法人化する上での問題点を精査するとともに詳細なロードマップの作成を行う。来年の総会(2017 年 3 月)にて、法人化に向けた会務説明(財務、会計処理さらに定款について)を行い、会員の同意を得る。同意が得られたら、1 年間かけ、会務内容を詰めていくことにする。2018 年 1 月には、学会役員が交代(新役員就任)となるが、法人化の会計年度は 4 月からとなるので、役員任期と会計年度の擦り合わせを行う必要がある。2018 年の年末までに、新法人の設立登記準備を行い、2019 年 1 月ごろの登記・法人成立を目指す。それに伴い、2019 年 2 月に、新法人にて選挙・新理事会の選任を行い、同年 3 月には、任意団体の解散総会・資産譲渡を行う。同年 4 月より新法人として新たなスタートを切る。理事会開催回数は限られているので、メールで進捗状況の報告や審議を

行う。堀口理事長より、提案があったロードマップで、新役員の選挙(就任時きや任期)については、法人化する時期を見据え、会則改訂も含め慎重に議論する必要がある旨、発言があった。法人化の是非あるいはメリット・デメリットの洗い出しに関しては、理事懇談会で討議。

### 3) 用語委員会の委員追加について

八木理事より、岐阜大学の江崎先生の用語委員会委員への追加案が提示され、承認された。

### 4) 役員選挙業者の選定について

八木理事より、資料に基づき以下の説明があった(式次第 p36-48)。選挙を電子化(Web 選挙)するために2社(教育ビジネスサポートと株式会社ダイナコム)より相見積もりを取った。見積額は、教育ビジネスサポートは事前作業費、Web 選挙運営\*システム構築費、株式会社ダイナコムは初期費用、ID/パスワード通知システム構築費、Web 選挙運営費からなっていた。ID/パスワードが、教育ビジネスサポート株式会社は、郵送で通知されるが、株式会社ダイナコムは、Web で通知管理される。投票期間中のデータ取得が、教育ビジネスサポートでは可能(ダイナコムでは投票期間中の投票率が不明)。選挙を電子化することで、今まで10人程度の人員で4-5時間を要していた煩雑な開票作業がなくなる。堀口理事長より、以下の追加発言があった。Web 化することで、選挙管理費は、大幅に圧縮される見込みになる。大西理事より、ダイナコムは、個人情報(会員番号や生年月日)を必要以上に渡すことになるが、ビジネスサポートではどの程度の情報を渡すのかと質問があり、事務局早瀬氏から、ダイナコムは全てをWebで行うため、個人情報をWebで入力する必要があるが、教育ビジネスサポートには、学会が作ったラベル(必要以上の個人情報を渡すことはない)のみを渡すことになることと回答があった。堀口理事長から、打ち合わせの際の川端理事からの発言として、立ち上げ費用と継続的に契約した際の2回目以降の費用(ディスカウントの程度)についての質問があった。事務局早瀬氏より、情報を収集する必要があるとの回答があった。システムの立ち上げ期間は、データがあれば双方とも1月程度。中川理事より、前回の評議員選挙の投票率に関して質問があり、事務局早瀬氏より、43.4% (646名/1,488名)と回答があった。審議の結果、2回目(更新時)の費用などデータを確認した上で、次回の理事会で委託業者を決定することになった。

### 5) Web 上からの会費納入や新規入会手続きについて (クレジットカード払いについて)

学会事務局早瀬氏より、資料に基づき(式次第 p49-51)、会費の支払い(新規入会と毎年行う会員の継続的な支払い)をHP上でクレジット決済を介して行うためのHPイメージとその構築費見積もりについての説明があった。システム構築は一般財団法人口腔保健協会が行い、その見積額は108,000円。発生する費用は、初期費用のみで、ランニングコストは必要ないが、システム利用料・入金処理手数料として決算額の8%が必要となる(個人負担); 郵便振替や自動引き落としでも手数料が発生している。堀口理事長より、個人負担分の手数料(800円)をディスカウントしてほしいとの、要請があり、事務局早瀬氏より、持ち帰って検討する旨、回答があった。木村理事より、会費徴収に関して、HPで一本化するのかとの質問があった。早瀬氏より、あくまで会費の納入方法を増やすためのものと(従来通りの振り込みと自動引き落としはそのまま)、回答があった。白井理事より、ハード情報の管理会社に関して質問があった。早瀬氏から、PayPal(口腔保健協会とは別)が行う旨、回答があった。堀口理事長より、入会のハードルを下げ、会員数を増加させるためにも、推進したい旨、発言があった。審議の結果、クレジットカード払いシステムをHP上に設置することについて、

了承された。川端理事より、このシステムを利用した際の入会チェック機構に関する質問があった(誰でも入会が可能となってしまうのではないか)。早瀬氏から、一旦質問事項に回答してもらった後に、決済画面に移行すれば良いと、回答があった(システム上での対応は十分に可能)。また堀口理事長から、現在の入会手続き上のチェックシステム(例えば小学生など誰でも入会できるのか)についての質問があり、早瀬氏より、口腔保健協会では2段階でチェックをしており、不審点があれば随時理事会に上がる仕組みになっているとの回答があった。川原理事より、入会の線引きに関する質問があり、川端理事から、現在の細菌学会の入会規則には、そのような制限はないとの回答があった。木村理事より、入会手続きを従来通り行った後で(入会チェック)、HP上でクレジット決算とする2段階方式では、クレジット決算を導入するメリットがあまりないのではとの発言があった。早瀬氏より、技術的には、一括できる旨、回答があった。審議の結果、これらの質問を踏まえ精査した詳細な情報をもとに、次回の理事会で決議することになった。大原監事より、入会手続きが、若い人にはメールよりハードルが高いファックスのみなのかと質問があった。早瀬氏より、メールでも受け付けている旨、回答があった。山口理事より、会員の入会から、更新全てをHPでできるようにする方が、手続きの煩雑さが解消され、若い人へのメリットが大きいのではとの発言があった。また中川理事から、Googleフォームを利用することで(無料)、そのように一貫したシステムができると、説明があった。堀口理事長より、これらのことを全て踏まえ、口腔保健協会と中川理事が、たたき台を作成し、次回の理事会で比較検討することになった。また木村理事より、従来のスタイルを止めクレジット払い1本にするのかと再び質問があり、堀口理事長より、クレジットカードを持っていない学生のためにも、従来の方法も残した方がよいとの追加説明もあった。

## 6) 海外会員の設定に関して

堀口理事長より、海外会員(例えば日本で研究していた会員が母国に帰った場合など)の設定条件(会則・会費・選挙権)を検討理事として、中川理事が任命され、了承された。事務局早瀬氏より、現在の海外会員の会費が9,000円であり、選挙には関わっていない旨、追加説明があった。

## 7) 用語集について

八木理事より、資料に基づき(式次第 p52)、用語集(便覧も含む)の販売部数がここ数年(2013-2015年)ゼロであるとの報告があった。堀口理事長から、前回の理事会での南山堂からの意見聴取内容を踏まえ、用語集の冊子体での販売を見直す必要があり、どのような形(CDやWeb版検索機能付きアプリ\*100万円程度かかるがエクセルをWeb上に公開するだけなら50万円程度)で残すのか検討に入る必要がある旨、説明があった。また堀口理事長より、今回の理事会にて、病原体等安全取り扱い・管理指針やDVD(動画版と写真版)の販売数も含め、収支決算を比較し検討材料とする旨、追加説明があった。資料の決算内容(収入/支出)は、病原体等安全取り扱い・管理指針(2008-2015年)が7,108,500円/4,067,505円、DVD(写真版)(2013-2015年)が261,000円/151,200円、DVD(動画版「細菌の無菌操作と染色」)(2012-2015年)が236,000円/1,465,000円、用語集(2008-2015年)が754,000円/0円、DVD(動画版「グラム陽性球菌の同定・グラム陰性桿菌の同定」)(2015年のみ)が324,540円(支出のみ\*まだ販売していないので)。八木理事からは、用語集には歴史的に価値のあるものも含まれており、学会として残すのは義務と考えられ、最新の内容を組み入れ改訂し、冊子体ではなく、Web版で残すのが良いとの、発言があった。木村理事より、CD版を一旦Web版にしてしまうと、作成費用の回収や収入は見込めなくなるので、残した方が良いのではとの、発言があった(検

索機能つきの CD や USB 作成には 200 万円程度かかる)。白井理事より、Web 版にして、課金できないのかとの、発言もあった。山口理事より、細菌学会 HP に付加価値をつけるためにも、検索機能付き用語集を Web 版で公開(自由にアクセスできるように)するのが良いのではとの、発言があった。八木理事から、前回の用語集委員会での結論であったとの追加発言があった。八木理事からは、用語集委員会として、新たにメンバーに加わる、岐阜大学の江崎先生の意見を踏まえ、用語集の改訂作業を進めたいとの、意向が示された。堀口理事長より、これらの審議内容を踏まえ、用語集は、学会の使命でもあるので、Web 版としてとりあえず公開し、次年度以降、予算のめどがついた時点で検索機能についても、随時検討していくことにすると、今後の用語集のあり方に関する方向性が示された。

#### 8) 細菌学教育用映像素材集・動画第 2 版の販売契約について

学会事務局早瀬氏より、資料に基づき以下の説明があった(式次第 p53-54)。DVD 動画版「グラム陽性球菌の同定・グラム陰性桿菌の同定」の販売を、本総会から開始するにあたり、日本細菌学会と口腔保健協会との間で販売契約書を交わすことになった旨、説明があった(DVD1 枚の販売価格は 3,000 円)。審議の結果、了承された。

#### 9) 持ち回り審議の確認について\* (「ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン (子宮頸がん予防ワクチン) 接種推進に向けた関連学術団体の見解 (案)」について)

堀口理事長より、表記に関する持ち回り会議内容について、以下のように説明があった。大西理事と川原理事の意見交換内容を踏まえ検討した結果、日本細菌学会としては、「基本的に見解の提出に異論はない」と回答した。また非参加学術団体 2 団体(公社日本産婦人科医会と公社日本婦人科腫瘍学会)の表記見解(案)への追記について(平成 28 年 3 月 14 日に本学会に連絡)、審議の結果、了承された。大西理事より、本見解は 4 月 18 日を目処に公表することになっている旨、追加説明があった(各学会 HP への掲載も推奨)。本学会 HP への掲載は審議の結果、見送られた。

#### 10) 評議員会および会務総会での報告事項／報告者の確認について

評議員会と会務総会での報告事項・報告者の確認がなされた。

#### 11) 平成 28 年第 3 回および第 4 回理事会開催日について

事務局早瀬氏より、総会後にメールにて調整する旨、説明があった。

#### 12) その他

### VI. その他

平成 28 年評議員会について：

開催日時：平成 28 年 3 月 22 日 (火) 16 時 00 分～18 時 00 分

会 場：大阪大学微生物病研究所 谷口記念講堂

平成 28 年会務総会について：

開催日時：平成 28 年 3 月 24 日 (木) 13 時 40 分～14 時 40 分

会 場：大阪国際交流センター 1 階大ホール

### VII. 閉会